

# 時 論



## 新物價政策と道路鋪裝の急務

富 山 健

◆

這般物價統制大綱として發表された政府の新物價政策は、從來の物價對策が、事變前の物價水準を大體の目標として、物價騰貴を抑制する應急的措施の範圍を出でなかつたものを改建して、國內物價の安定を期し、以て輸出を増加し、生産力を擴充し、軍需の供給に支障なからしむると共に、國民生活の安定を圖り、戰時經濟の運営を全からしめんとするものであつて、長期建設に對應する恒久的對策として極めて重大な意義を有するのである。

◆

惟ふに、適正なる戰時價格を形成して國內物價を安定せんがためには、一方に於ては需要の著しく

増加せる部門に對して需給の調整方を確立すると共に、他方に於ては、價格の維持安定の爲に取締法規の制定その他各般の施策を必要とすることは改めて云ふまでもない。而して、後者のためには既に廣汎多岐なる經濟法規の制定を見、これと表裏相應じて經濟警察制度の創設せられたことも人の能く知るところであつて、茲に改めて言及する必要はない。唯、前者即ち需給の調整方策に關しては陸上運送の現狀に鑑み、生産費構成の一大要件たる運賃引下の問題に關聯して一言述べてみたいと思ふのである。



蓋し、物資の價格が、其の生産費に依つて直接至大の影響を受くべきは極めて明白なる事實である。如何に物資々源が豊富なりとするも、若し生産費が不廉ならば、結局物價は高からざるを得ずして、生産力の擴充も、輸出の振興も到底庶幾することを得ざるは勿論、目前の軍需品調達にすら支障を生ずることになるは必定である。近時軍需品の單價切下の問題が眞劍に取上げられつゝあるも宜なる哉と云はざるを得ないのである。而して、生産費を低下せしめんが爲には、其の構成要素の各個に付夫々適切なる對策を樹立するの必要があるのであつて、就中運賃其の他の運送費の節減方策は極めて重要な一項目を成さねばならぬと考へられるのである。然るに今回の物價統制大綱に於ては此の點に關し、單に運送量の調整に付て考慮せられたるに止まり、運送量の増加乃至運送其のものゝ經濟化に因る根本的對策が構せられて居らないことは誠に遺憾千萬である。

近時陸海運送費の再検討の必要が各方面から叫ばれて居り、道路運送に依る小運送についても徹底的なる改善方策を要求せらるべき情勢に在るのであるが、これ全く生産費合理化の要請に出づるのであつて、時局下まことに當然のことと云はねばならない。

試みに最近の小運送費を調べて見るに、昭和十年度の実績は、鐵道運賃二億二千八百萬圓に對し、小運送費は三億七千五百萬圓總小運送費は實に十億圓の巨額に達して居るのである。この數字を以てしても、假令事變下の今日多少の消長ありとするも、小運送費が名は小なるも實は小ならず、其の多寡が商品生産費、従つて價格の構成上如何に樞要なる關係を有するか、國民經濟生活上、綜合國力の充實上如何に強力なる影響を及ぼすかが判然するのである。

◇

而して、小運送費の低下を期する爲には、小運送制度そのものゝ改善合理化、貨物自動車その他の運送機關の整備擴充も固より必要であるけれども、それと共に、其の運行の地盤たる道路の改良を等閑に附すべきではない。否、道路の改良こそ、小運送費の低下に最も直接至大の效果をもたらすものと云ふことが出来るかも知れない。何となれば、道路の改良により運送機關の運行は著しく圓滑且つ容易となり、従來單に一往復に止まりしものが二往復することが可能となり、或は運送機關の運行なかりし地域間に新しく交通が行はるゝに至ることもあり得るのみならず、運送機關並に運送物資の

損傷率も著しく減ずるに至るからである。然るに、道路交通の大動脈たる國道に於て尙七十八パーセント、地方的重要道路たる府縣道に於て八十八パーセントの未改良部分を有する實情は、その進歩の餘りにも遅々たるに慨嘆せざるを得ないのである。従つて、時局下、物資輸送の頻繁なる重要幹線道路は速かに徹底的改良計畫を樹立斷行すべきものと考へるのである。

◇

道路の改良に畫龍點睛の效果をもたらすものは、舗装でなければならぬ。道路の改良そのものは前述の如く、幾多の效果があるけれども、舗装は實にその極致であつて舗装により、ガソリンその他の燃料消費量の節約、輪帶費、車輛修繕費、器材費の節約等に顯著なる利益をもたらすは勿論、自動車保有量の増備、積載量の増加、運轉速度の増大に因る運轉回數の増加は、結局貨物自動車等の機能を著しく増大することとなり、延いて運送賃の低下、物價の下落を招來すべきは極めて明瞭であると云はねばならぬ。

◇

然るに我國道路舗装の現況は、既改良國道千七百料に對し千料、府縣道は既改良一萬五千料に對し二千料であつて、前者に於て七百料、後者に於て一萬三千料の未舗装道路を有して居るのである。然るに之等の未舗装部分は、生産力擴充上、軍事輸送上、輸出振興上其の他時局に鑑み緊急舗装を施行すべき必要あるものゝみと云つても決して過言ではないのである。従つて運送費低下に重大なる役

劃を演ずべき此の既改良未舗装道路の舗装こそは、重要幹線道路の改良と併行して、戦時物價対策上急務中の急務として、速刻着手すべき重要施設でなければならぬ。

◇

斯様に道路の舗装は、戦時物價政策の施行上まことに緊要不可欠の施設であると云ふべきである。然るに前述の如く、物價統制大綱中にこの點の考慮なく、又中央物價委員會の運賃制度を審議すべき所屬委員に、道路を管掌する内務省代表の顔振れ無きはまことに遺憾の極みであるのみならず、新物價政策の一角に重大なる瑕疵あるに非ざるやを危懼せざるを得ないのである。併しながら、夫れは兎も角我等は飽くまで此の再建物價政策の圓滑なる遂行を期せんが爲には、道路の舗装が最良最適の施設の一なることを提言し、其の實行に一段の努力を爲さんとするものである。

